

つながり再発見！^{しゅんこうじ}春光寺と松井家

八代^{ふるふもと}古麓町にある春光寺は、延宝^{えんぼう}5年(1677)に創建された臨済宗南禅寺^{りんざいしゅうなんぜんじ}の末寺^{まつじ}で、八代城主松井家^{ぼだいじ}の菩提寺^{ぼだいじ}(先祖^{ついでんくよう}の追善供養などを営む寺)として知られています。この展示では、春光寺に伝わる貴重な文化財の中から、お寺の歴史がうかがわれる絵画と古文書を展示し、松井家と春光寺との密接なつながりを紹介します。



春光寺は八代城主松井家^{ぼだいじ}の菩提寺^{ぼだいじ}です。延宝5年(1677)、松井家4代目直之^{なおゆき}が、先祖^{ついでんくよう}を供養するために建てました。

私が春光寺を建てました。



4代目 松井直之



境内の裏山には、松井家歴代の墓所があります。

私の墓も春光寺にあります。



初代 松井康之



初代^{やすゆき}康之・2代目^{おきな}興長^{じゅんし}に殉死した松井家臣のお墓です。康之に殉死した松井志摩守盛永^{まついしまのかみもりなが}(作品5)のお墓もここにあります。



寛永 18 年(1641)

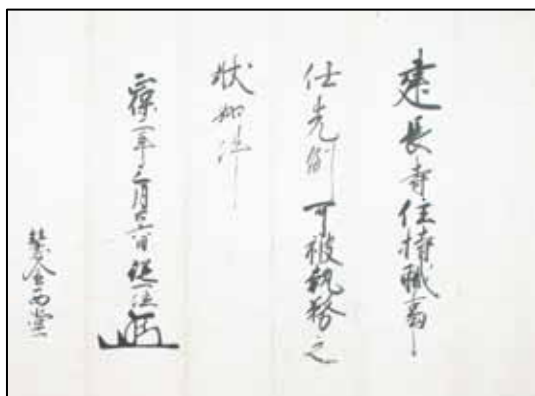
絹本着色・掛幅装

最嶽元良(南禅寺274世) 賛

春光寺所蔵

松井家初代康之^{やすゆき}の妻、自得院^{じとくいん}の肖像画です。自得院は元和5年(1619)幕府^{しやうにん}の証人として江戸に赴き、寛永18年(1641)に病死しました。亡くなる前に残した自筆の手紙に、自分の身のまわりの世話をした人々に感謝の気持ちを表し、その人々の今後の生活を息子興長^{おきな}に依頼しています。この肖像画からも、このような気丈で心遣いの細かい人柄^{うちかけ}がうかがえ、打掛^{ぼだいじ}も美しい模様に描かれています。自得院の墓は、松井家の菩提寺春光寺にあります。

証人 = 大名などのあいだで、人質として相手側に引き渡された者



正保2年(1645)3月26日

紙本墨書・縦紙

えきんさいどう いせいえきん
慧金西堂(惟精恵金) 宛

春光寺所蔵

こうじょう
公帖とは、将軍から出される ぜんしゅうじいん
禅宗寺院住職任命の辞令のことです。本状は、いえみつ
徳川家光が
えきんさいどう いせいえきん
慧金西堂(惟精恵金)に出したもので、けんちょうじ かまくらござん じゅうしよく
建長寺(鎌倉五山)の住職に任命すると記されてい
ます。えきんさいどう
慧金西堂は、春光寺の前身である しょうこういん
春光院(現熊本市東子飼町)を開いた人です。本状で
えきんさいどう けんちょうじじゅうしよく
慧金西堂は建長寺住職に任命されますが、実際にけんちょうじ
建長寺に住むことはありませんでした。春
光院住職であった えきんさいどう
慧金西堂には、けんちょうじじゅうしよく りんざいしゅう
建長寺住職という臨濟宗で2番目に高い位(1番はなんぜんじ
南禅寺
じゅうしよく
住職)が与えられたのでした。



天和2年(1682)9月15日

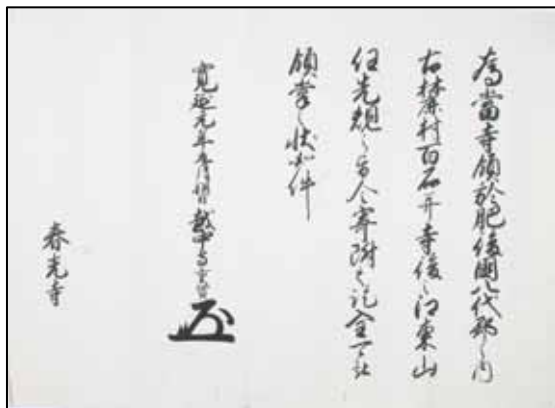
紙本墨書・豎紙

正巖和尚 宛
せいがんおしろう

春光寺所蔵

5代将軍徳川綱吉が、春光寺住職正巖光端に宛てたもので、南禅寺住職に任命すると記されています。南禅寺住職は、江戸時代の臨濟宗のなかで最高の位にありました。

南禅寺は京都市にある臨濟宗南禅寺派の本山です。室町時代、禅宗界最上位と位置づけられましたが、戦国期には衰退します。これを復興したのが玄圃霊三で、松井康之の叔父にあたります。南禅寺と松井家は、古くからこのような縁があったのでした。

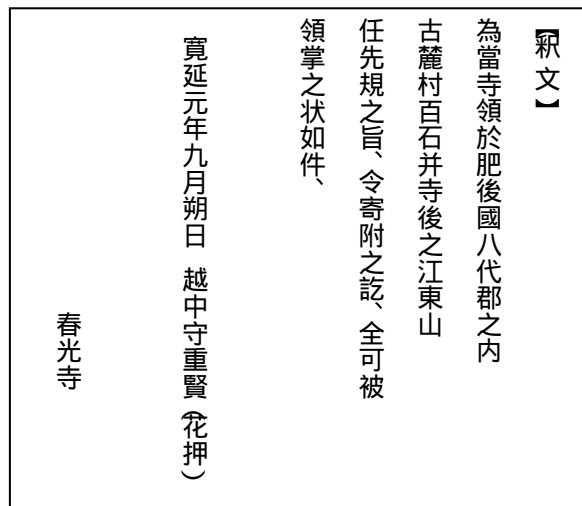


寛延元年(1748)九月朔日

紙本墨書・豎紙

春光寺 宛

春光寺所蔵



肥後熊本藩主細川重賢が春光寺に与えた寄進状です。八代郡古麓村の内 100石分の領地と春光寺の裏山(江東山)を寄付すると記されています。このように春光寺は、歴代の藩主から領地の寄進を受けていました。肥後国でこれほどの領地を寄進された寺は、加藤家や細川家の菩提寺を除くとわずかしかありません。



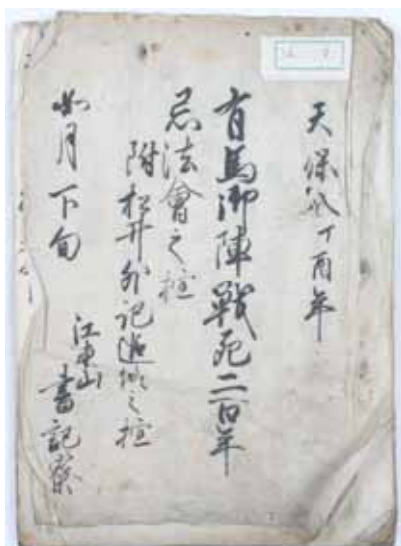
慶長 17 年(1612)

絹本着色・掛幅装

いしんすうでん
以心崇伝(南禅寺 270 世) 賛

春光寺所蔵

松井康之の家臣、松井志摩守盛永(田中理右衛門)の肖像画です。明智光秀の家来だった盛永は、光秀の死後、康之に召し出されました。以来 30 年間康之に仕え、たいへんかわいがられました。慶長 16 年(1611)康之が病気になる、^{じゆんし} 殉死(主君の後を追いつめこと)を願ひ出で許可されました。翌年に康之が亡くなると、その日のうちに殉死しました。殉死したのは盛永だけで、康之の子興長は盛永の忠節に感心し、^{えし} 絵師に命じてこの肖像画を描かせました。



紙本墨書・縦帳

天保 8 年(1837)

春光寺所蔵

「有馬御陣」とは、寛永 14 年(1637)に勃発した天草・島原の乱のことです。熊本藩家老松井興長は、藩主細川忠利の命を受け、乱平定のため天草と島原に出兵しました。この戦いで、番頭松井外記をはじめとする松井家臣 8 名が亡くなりました。

天保 8 年(1837)、戦死した家臣 8 名の 200 回忌の法要が春光寺でおこなわれました。この資料は、そのときの記録です。

この展示は、学芸員実習の一環として行いました。毎年 8 月になると、大学生が実習を受けるため博物館にやってきます。学芸員の資格を取るためには、一定期間の実習を受けることが必要です。今年 は 5 名の実習生が、八代市立博物館で実習を受けました。実習期間の 6 日間を使って、展示企画を考え、作品の解説文を作りました。この解説シートの原稿は、実習生が作文したものです。